

キャラクター名
ジェフティ

プレイヤー名

シンドローム	バロール ウロボロス	ワークス	レネゲイドビーイングC	カヴァー	研究者
オプション		年齢	不明	性別	見た目は少女
覚醒	無知	衝動	闘争	初期侵食率	53 %
出自	冬眠	経験	旅	邂逅	貸し

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	1	0	0			1	行動値	14
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	14
精神	4	1	3		2	10	戦闘移動	19
社会	1	0	0		1	1	全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	8		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
断罪の槌	R C	16r+8	0	12		C値8 範囲(選択) 侵蝕値8 2+3+4+5
100↑	R C	17r+8	0	14		C値7

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
強化服	1	1			

所持品	
情報収集チーム 使用人	

合計装甲: 1 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
ロイス:遺産継承者(誓約の瞳)	P	N		
研究者	P 好奇心	N 悔悟		
仲間	P 有為	N 無関心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1		常時	至近	自身	自動	RB	
効果: 衝動判定のダイス+LV個、基本侵蝕率+5								
オリジン:レジェンド	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果: 【精神】の達成値+LV*2								
C:バロール	3	2	メジャー			対決		
効果: C値-LV(下限値7)								
黒の鉄槌	5	1	メジャー	視界		対決		
効果: 攻撃力+LV*2+2、同じエンゲージ攻撃不可								
インビジブルハンド	5	4	メジャー	視界	範囲(選択)	自動		
効果: 攻撃力+LV 飛行状態解除								
斥力の槌	5	2	メジャー					
効果:								
斥力跳躍	2	1	マイナー					
効果:								
原初の赤(魔獣の衝撃)	5	3	メジャー					
効果:								
原初の黄(不死者の恩寵)	3	5	クリナップ					
効果:								
原初の紫(妖精の手)	3	5	オート					
効果:								
混色の氾濫	3	2	メジャー					
効果:								
時間凍結	1	5	インシアブ	至近	自身	自動	80↑	
効果: イニシアチブプロセスでメインプロセスを行う								
覇皇幻魔眼	3	5	メジャー				80↑	
効果:								

レネゲイドウィルスの研究に没頭する研究者。
その真の姿は知恵の神トトであり、現在はその別名であるジェフティを名乗っている。
普段は自分の研究所にこもって出てこないがUGNから面白そうな仕事が出てきたときのみにイーガルとして協力する形を取っている。

～我が名はジェフティ。知恵の神にして時の管理者なり～

エジプトの神の一柱であったが人々の信仰が得辛くなったことで世界を旅することを決意。
人の姿を借りて旅に出る。
「我々が世界を創り上げたところからは随分と変わったものだね。人の世というのは」
そんなことを考えながら旅をしながらカナダに辿り着いたとき予想外の事態に遭遇した。
思っていたより寒かったのだ。
「人間の体とはここまで不便なのか!？」
などと後悔するも後の祭り。そのまま凍り付き永久凍土の中に埋もれる。
何とか身体を維持するため力をセーブして仮死状態に近い状態で時の流れを待った。
そして数百年後研究チームによって掘り返され、その中の一人の手によって日本に輸送される。
気が付いてからはレネゲイドウィルスを研究しているという研究者を気に入り共に研究を始める。
その途中いつの間にかレネゲイドウィルスに感染していたらしくバロールの力を扱えるようになっていた。
『君がトト紳だというのが本当なら君は時の管理者ということになる。となればバロールの適性があるのも当然だろう』と研究者は語った。
それから少しして次は研究対象であった[誓約の瞳]に偶然触れてしまい、なし崩し的に契約。
研究者には酷く怒られ、流石に凹んだ。それからというもの人に対して僅かながらの不信任を抱くようになった。
さらに時は流れ研究者は死んだ。
残ったのは研究者のラボとジェフティのみだった。

